

患者さんの「食べたい」思いに 応えるために

口から食べることは、生命を維持するための栄養補給と同時に、「食べる楽しみ」や「生きる喜び」も味わえます。しかし、病気や加齢などで食べる機能が低下することは少なくありません。

私は食べる機能が低下した患者さんと多く関わってきました。病棟では、誤嚥性肺炎ごえんせいはいえんを患った人や、病気の後遺症などにより上手に食べることができない人がたくさん入院しています。そこでよく耳にしたのは、「食べられないの?」、「最期まで食べたい」という言葉でした。そのなかで、看護師や管理栄養士などの協力によって食べることができると、なんとも言えない素敵な表情を見せ、「食べることができた。おいしい。」と喜ぶ姿を目にしました。食べることは楽しみであり、回復への活力であると感じたとともに、私たちの大きな喜びにつながりました。

関わりの中で、患者さんの思いに寄り添い、「食べたい」思いに応えるため、また安全に「食べてもらえる」技術や知識を身につけようと思い、私は7か月間研修を受け、摂食・嚥下せつしょく えんげ障害看護認定看護師の資格を取得しました。

現在は摂食嚥下チームや栄養サポートチームの一員として活動し、さまざまな患者さんの食べる機能へのケアや栄養管理を行っています。また、院内などで定期的に研修会を開催し、食べる機能に関する知識や技術の普及に努めています。そして、病院で治療を受けている患者さんも最終的には地域へ戻り生活していくため、地域の診療所や施設と連携し、退院後も継続したケアをできるようにしています。

私たちはひとりでも多くの患者さんの「食べたい」思いに寄り添い、もう一度「おいしい」と笑顔になってもらえるよう尽力していきます。

摂食・嚥下障害看護認定看護師

伊丹 幹人